

第41回有瀬図書館ギャラリー展

11月11日(土)～12月9日(土)

神戸学院大学有瀬図書館本館2階
エントランスコーナー

Meridian

神戸学院大学図書館展示会通信 第43号



A班



B班

博物館実習 I

大学周辺の古人の暮らし展 (台所編)

兵庫津遺跡から見る江戸時代の人々の暮らし展

開催時間や開催期間は変更になることがあります。図書館HP、掲示にてご確認のうえご来館ください。

大学周辺の古人の暮らし展（台所編）

私たちが学ぶ神戸学院大学周辺の遺跡より出土した品々の中から、生活用品を展示しています。現代の私たちの便利な生活道具とは違い、古代の道具はそれぞれの作り手が必要に応じて自分たちで作っています。展示品から、古代の道具の使い方や、食料の獲得方法が見えてきます。



壺

内容物がこぼれにくく、収納量を多くするため、口縁部と胴部が広がり、頸部が細くなる形をした土器です。液体や種もみなどの保存に使用したと考えられます。



鏃(やじり)

狩猟具・武器である矢の先端に取り付けられた鋭利な刃器です。縄文時代初めごろに弓矢が用いられるようになり、鏃の部分石材・動物の葉・骨などで作られました。



石包丁

石包丁とは弥生時代に使用された、稲を刈るための石製の刃器の名称です。主に磨製石器による石包丁ですが一部では打製石器のものも発見されています。主に秋の収穫時に実った稲穂のみを選び、刈り取るために作られたと考えられています。



土師器(はじき)と須恵器(すえき)

土師器は古墳時代から中世にかけて用いられた素焼きの土器です。古墳時代に朝鮮半島から技術が伝わり、作られるようになったのが須恵器です。

兵庫津(ひょうごのつ)は平安時代末に平清盛が改修し、船舶の寄港地や海運と陸運の結節点として、江戸時代に最盛期を迎えました。

兵庫津遺跡の出土資料からは、そんな活気のある港近くの町で生活する人々の暮らしが垣間見えます。

兵庫津遺跡から見る江戸時代の人々の暮らし展



丁銀形土製品と分銅形土製品

丁銀形土製品は、土製模造銭のひとつです。丁銀は秤量貨幣の一種で、室町時代より存在していました。江戸時代では金貨および銅銭と共に三貨制度の一角を担い、「銀何貫何匁」と重さの単位で取引されていました。丁銀は主に大坂を中心とした西日本および北陸、東北と広域にわたって流通しました。分銅形土製品は、貨幣や物品の重さを量る天秤で用いられる分銅の形を細部まで表現しています。

ままごと

「ままごと」とは子どもが調理・食事のまねごとをする遊戯です。江戸時代には、ままごとの器や道具が素焼き・陶磁器で作られるようになりました。子どもたちは、遊びを通じて食卓での礼儀作法や、来客に対する挨拶の仕方などを自然と学びました。



土人形(神仏)

江戸時代後半に粘土を型で成形した人形が、その土地の行事や風習、伝説などを取り入れながら、人々の素朴な願いや祈りをこめて各地で作られました。

やがて玩具や置物、土産物として、多彩な型の土人形が作られました。

兵庫津遺跡出土の土人形は、バリエーションが豊かなことが特徴です。なかでも神仏をかたどったものが多く、仏像や七福神の恵比寿などが出土しています。



準備中の様子



展示風景



編集後記

今回のギャラリー展は、この時期恒例の博物館実習の学生が、展示を行いました。生活道具と一言で言っても、古代は食に直結するものがほとんどですが、江戸時代になると、玩具や、書き物など道具一つでも生活の豊かさが垣間見えます。時代によって変遷する道具に対する、学生のこだわりの展示をぜひご覧ください。

神戸学院大学図書館 展示会通信 MERIDIAN 第43号

2017年12月5日発行

発行・編集：神戸学院大学 有瀬図書館

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

TEL：078(974)4584 E-mail: pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp

ホームページURL: <http://opac.kobegakuin.ac.jp/>